

履修モデル

学位取得に向けて研究するために、研究課題に即した適切な授業科目を選択しなければならない。そのため、以下の履修モデルを参考に研究課題に即したオリジナルな履修計画を立てることとなる。

日本文学専修	研究題目	新古今和歌集と本歌取り－中世和歌の表現研究－	
	養成する具体的な人材像	文学作品を歴史的・文化的背景をふまえて理解し、主体的に研究する視点と方法を身につけた人材を養成する	
	研究内容	武士が台頭し、戦乱や政変の相次いだ転換期の中世に、王朝以来、貴族文化の中心にあった和歌はどのように受け継がれ、また変容していったのか。中世初頭の新古今時代に流行した和歌の表現技法「本歌取り」は、古代や王朝といった〈古〉を憧憬し共有し再生することを目指す時代の志向を体現するもので、転換期を生きた歌人たちの表現意識を考察することのできる題材である。本歌取りの大成者は実践（詠歌）的にも理論（歌論）的にも藤原定家であり、従来、現実を遮断して完結した世界を創出する定家の方法が本歌取りの核心として扱われてきた。しかし、本歌取りは〈古〉が過去のものとなり失われていくという危機意識のもと、中世の現実を背景に流行したものであろう。よって時代背景の中で、本歌取りが表現しうるものをもう少し広くとらえられないだろうか。本研究では、本歌取りの隆盛期に成立した『新古今和歌集』を対象として、時代背景を視野に入れつつ、個々の所収歌の本歌取りの表現機能や表現効果を分析すること、そのうえで撰歌や配列から後鳥羽院や撰者の意図、現実とのかかわりを考察し、歌集の構想の一端を明らかにすることを目指す。	
	指導教員	君嶋亜紀教授 研究計画、研究全体の指導、中世文学・和歌文学の指導	
	履修科目	1 年次	2 年次
		（基礎科目） 日本文学研究方法論（2 単位） 日本文学基礎演習（2 単位） （共通科目） 草稿・テキスト学（2 単位） （古典文学分野） 中世文学講義Ⅰ（2 単位） 中世文学講義Ⅱ（2 単位） 中世文学演習Ⅰ（2 単位）	（古典文学分野） 古代文学演習Ⅰ（2 単位） 古代文学演習Ⅱ（2 単位） 中世文学演習Ⅱ（2 単位） （関連分野） 語学文学特論Ⅰ（2 単位） 語学文学特論Ⅱ（2 単位）
		（研究指導）言語文化学特別研究Ⅰ（4 単位）	（研究指導）言語文化学特別研究Ⅱ（4 単位）
		必修2 科目 8 単位、選択11 科目22 単位、合計13 科目30 単位履修	

英語文学・英語教育専修	研究題目	英語の軽動詞構文	
	養成する具体的な人材像	広範な文法的言語データ（コーパス）と非文法的言語データ（母語話者の直感）を緻密に分析し、一般的な原則を導くことができる人材	
	研究内容	軽動詞構文は、少なくとも二つの観点から記述することが想定される。第一は、基本動詞と事象名詞との連語関係である。基本動詞と事象名詞は複合対応を示すので、両者の関係を緻密に記述しなければならない。第二は、対応する単独動詞構文との意味的差異である。事象名詞は不定冠詞を伴うので、これも考慮に入れ、両者の差異を統一的に記述しなければならない。この二つの目標に達するには、認知意味論・プロトタイプ論など、適切な言語モデルに準拠する必要がある。反証可能な仮説を設定し、言語現象を包括的に分析することが要請される。	
	指導教員	伊東武彦教授 指導計画、タスクに関する先行研究の理解、指導、統括 村上 丘教授 文法理論、英語法研究に関わる指導	
	履修科目	1 年次	2 年次
		（基礎科目） Developing Critical Thinking Skills（1 単位） Critical Reading and Writing（1 単位） Professional English（2 単位） （共通科目） 児童文学論（2 単位） （英語教育分野） 英語教授法研究（2 単位） 英語教育リサーチ方法（2 単位） スピーキング・ライティング指導演習（2 単位）	（英語教育分野） リーディング・リスニング指導演習（2 単位） 児童英語コミュニケーション演習（2 単位） 児童英語カリキュラム研究（2 単位） （英語学分野） 語法文法研究（2 単位） 発話の機能（2 単位）
		（研究指導）言語文化学特別研究Ⅰ（4 単位）	（研究指導）言語文化学特別研究Ⅱ（4 単位）
		必修2 科目 8 単位、選択12 科目22 単位、合計14 科目30 単位履修	

国際文化専修	研究題目	アジアにおける異文化コミュニケーションのあり方についての研究	
	養成する具体的な人材像	グローバル化する社会に対応して、柔軟に思考しかつ国際的に行動できる専門的職業人および実践的研究者	
	研究内容	2022 年現在、日本の貿易相手地域第 1 位はアジアで、輸出入総額の 54.2% を占めており（財務省貿易統計による）、日本の企業等においても、アジアにおける事業展開および人材交流が拡大している。ただ、アジアには、古代の華夷秩序や、近代における戦争、さらには経済体制の違いなどによる様々な問題が横たわっている。これらの問題解決にあたり、最も有効な方法が、互いの文化を尊重し、理解する異文化コミュニケーションの推進であることは論を俟たない。本研究では、このようなアジアにおける異文化コミュニケーションのあり方について、多面から考察したい。このことにより、アジアにおける国際関係の未来を展望できよう。	
	指導教員	松村茂樹教授 主に異文化コミュニケーション、国際社会に関わる研究指導 松田春香准教授 主に東アジア国際関係史、韓国・朝鮮近現代史に関わる研究指導 関本紀子専任講師 主に東南アジア地域研究、ベトナム社会経済史に関わる研究指導	
	履修科目	1 年次	2 年次
		（基礎科目） 国際文化研究法（2 単位） コミュニケーション文化基礎演習（2 単位） （共通科目） 言語コミュニケーション研究（2 単位） （国際文化専修科目） 異文化コミュニケーション演習Ⅰ（2 単位） 異文化コミュニケーション講義Ⅱ（2 単位） 異文化コミュニケーション演習Ⅲ（2 単位） 社会・政策コミュニケーション演習Ⅰ（2 単位）	（国際文化専修科目） 異文化コミュニケーション講義Ⅰ（2 単位） 異文化コミュニケーション演習Ⅱ（2 単位） 異文化コミュニケーション講義Ⅲ（2 単位） 社会・政策コミュニケーション演習Ⅱ（2 単位）
		（研究指導）言語文化学特別研究Ⅰ（4 単位）	（研究指導）言語文化学特別研究Ⅱ（4 単位）
		必修2 科目 8 単位、選択11 科目22 単位、計13 科目30 単位修得	

（修言語）